

はくぶつかん探検隊のはじめに

この本は、1997年から4年間にわたり、群馬町の広報誌「町報ぐんま」に連載された「かみつけの里はくぶつかん探検隊」をまとめ直したものです。当館の展示品や模型、群馬県のお宝などについて、ニューファミリーと学芸員がかけ合う形で展開していくシリーズでした。柔らかい文体やリズムミカルな会話が絶妙で、分かりやすいと好評をいただきました。本書では新たに、内容を改定し、写真やイラストも増やして構成してあります。こども向けの郷土学習の参考資料として、また当館の楽しいガイドとしてご活用いただければと思います。

かみつけの里博物館

例言

はくぶつかん探検隊の原稿は、広報誌連載時に以下の学芸員がそれぞれ執筆した。

若狭徹、佐島優子（平成11年6月転出）、内田真澄（平成13年3月転出）、清水豊

本書を編集するにあたっては、連載順序を崩してジャンル別に割り振りを行い、全体の流れの統一を図るために若狭が部分的に改定・補稿し、一部は書き下ろした。

●目次 contents

はじめに 例言

目次

キャラクター紹介

I 王の館と古墳の話	2
I-1 かみつけの里博物館初登場	3
I-2 王の館のはなし	5
I-3 復元される八幡塚古墳	7
I-4 前方後円墳のはなし	9
I-5 王の棺をさぐる	11
I-6 いろいろな棺	13
I-7 八幡塚古墳の模型から古墳づくりをさぐる	15
I-8 古墳の石積みから考える	17
年表	19
II 古代のくらしと技術	20
II-1 火山灰に埋もれたムラ	21
II-2 竪穴住居を見直す	23
II-3 まつりのあと	25
II-4 発見された土器の山	27
II-5 田んぼと畑のはなし	29
II-6 田んぼづくりと鎌倉山の噴火	31
II-7 木の道具たちを語る	33
II-8 ひとつの土器が海をこえる	35
II-9 金色のクツ	37
II-10 谷ツ古墳の主をさぐる	39
広域の古墳マップ	41
III はにわの話	42
III-1 埴輪群像を読み解く	43
III-2 馬の埴輪から探る	45
III-3 埴輪に見る王のファッション	47
III-4 いにしへのファーストレディー	49
III-5 つるされた猪	51
III-6 すもう今昔	53
III-7 国内最古の「竊銅い」資料、発見!	55
III-8 こわい顔の意味するもの	57
III-9 埴輪のレプリカ	59
III-10 円筒埴輪のなぞ	61
博物館周辺の5世紀の様子	63
VI 古代の話題エトセトラ	64
VI-1 さいしよの古墳	65
VI-2 大倉館またまた発見	67
VI-3 消えた大古墳(1)	69
VI-4 消えた大古墳(2) 烏川流域の王	71
VI-5 消えた大古墳(3) 王たちの盛衰	73
VI-6 「車」をさぐる(1)	75
VI-7 「車」をさぐる(2)	77
VI-8 「車」をさぐる(3)	79
上毛野はにわの里公園マップ	81
原始古代の遺物がみられる博物館・資料館 協力機関一覧	82



★★★
I-1

かみつけの里博物館 初登場

- ねえ、おとうさん。群馬町の西のほうに博物館ができるんだってね。前に行った大きな古墳のそばだよ。
- ああ、保原田古墳群*の近くだな。もう建物はできたみたいだよ。高崎市とかの7つの市町村が合体した広域圏組合*が建設して、群馬町が運営していくらしいよ。
- いつオープンするのかなあ？
- 来年（1998年）の3月だってさ。古墳群のなかの八幡塚古墳の復元も始まったし、文学館もできたし、あの辺もすいぶん変わるなあ……（しみじみ）。オレが子どもの頃には桑畑ばかりだった。その頃、ガキ大将のオレは「ホドタのタケちゃん」なんて呼ばれて恐れられ……。
- あの一、ぼく、昔のくらしに興味があるんだ。竊輪とか、勾玉なんか好きだし。
- お前が？。勉強が好きなんて、お父さんの子らしくねーな。ノ

- （……ふつう、喜ぶよなー）
- そうだ、担当の学芸員さんを知ってるから話を聞いてみるか。
- 学芸員って何をする人なの？
- 博物館とか美術館で展示を考えたり、話をしたり、研究とかするヒトだ。
- 学校でいえば先生、病院でいえば医者さんのような存在？
- そうね、すし屋で言えば板さんだな。それから和食とかフレンチとか、料理人にも専門があるようにさ、学芸員にも専門があるんだって。あの館は土器やハニワ*が中心らしいから、考古学の学芸員がいるわけだ。
- へー、おとうさん、もの知りだね。ぼく尊敬しちゃうよ。
- エヘン（昨日おぼえたのさ……）。

- わけがあるんですよ。あそこに見える榛名山の姿って、堂々として実に美しいですね。昔から人々の心のよりどころだった榛名山麓の風景を壊したくないでしょう。だから、屋根を低く、外観はシックに景色に溶け込んでしまうように設計されたんです。
- 歴史的景観を保全するという思想が……。
- おとうさん、すごい。うまくまとめたね。
- ムフフ（父の威厳じゃっ）。
- なぜ来年の3月までオープンしないの？
- 建物のコンクリートの中に、資料にとって悪い成分が含まれているので、それが抜けるのを待っています。その間に、展示する模型とか説明文、イラスト、ビデオをつくったり、どう運営するかの仕組みを検討したりしていきます。ノ

- 建物の中身に命を吹き込んでいるんだね……。ところで、どんな展示が見られるんだろう？
- 常設展示はテーマをしばらくしました。今から1500年ほど前、この地域には東日本でも有数の古墳文化が花開いていたんです。ところが榛名山が大噴火して、火砕流*や土石流*がこのあたりを深く埋めてしまったんです。



常設展示室のようす

- こんにちは。上毛野はにわの里公園の中にできた「かみつけの里博物館」の学芸員Wです。よろしくー。
- 博物館ってすいぶんジミな建物ですね。

低く設計された かみつけの里博物館の建物



- そんなの知らなかったよ。こわいねっ。
- 火山灰でバックされたために遺跡はよく残り、発掘調査によってこれまで知られていなかったことがたくさん分かってきました。そうしたら5世紀の社会の復元をメインテーマにすえています。
- 他にもいろいろ知りたいことがあるんだけど。
- それじゃオープンより一足先に、かみつけの里博物館のあれこれを探ってみましょう。



展示作業のようす

- *保原田古墳群 5世紀の後半に造られた3つの大きな古墳（前方後円墳）がある。国の史跡に指定されている。
- *広域圏 正式には高崎市等広域市町村圏相互調整組合という名前。高崎市・安中市・榛名町・群馬町・高橋町・高橋町・松井田町の7市町村が加盟していて、消防とかゴミ処理などの仕事を協力して行っている。
- *火砕流 火山の噴出物がガスや熱風といっしょに流れてくるもの。木々や建物を倒壊し尽くす。
- *土石流 噴火のあと、火山灰や火山岩が雨によって流されて起こる洪水。

